

むすんでひらけ

札幌むすびば窓口便り 第 23 号



2013.12.22 発行
TEL 080-5720-0891
Email: info@shien-do.com
編集・むすびば受付チーム

札幌むすびば 「みなさんありがとう」交流会、 盛會に終了

むすびば事務局長 東田秀美

2013年12月7日(土)、北海道クリスチャンセンターにて開催された「みなさんありがとう」交流会は、感謝の想いで100名に近いみなさまをお迎えし、楽しく、懐かしく、温かく一緒に時間を過ごさせていただくことができました。ここに改めてお礼を申し上げ、会場の様子をお伝えします。

あいさつと今後の報告

小野共同代表からのメッセージに会は始まり、富塚共同代表からの挨拶がありました。続いては北海道NPOサポートセンター北村理事をはじめ、お世話になった方々からの労いのお言葉。乾杯はみちのく会の本間代表に音頭をとっていただきました。それからむすびば各チームが壇上に上がり、むすびば発展的解消後のそれぞれの未来



会場いっぱい集まったむすびばメンバーに、各チームがあいさつ

を語りました。独立した組織として今後も活動するチームもあれば、役目を終えて解散するチームもあります。そ

の中で、「みみをすますプロジェクト」がNPO法人として認証されたことを告げたときには、会場のみなさまから



乾杯はみちのく会本間会長さん



くらし隊あいさつ こだまプロジェクト・マザートゥリー・みさんがチーム・キルトチームの面々



いやし隊気功チームのあいさつ

大きな拍手をいただきました。ぜひ、今後も継続的に活動するチームへのご支援をお願いしたいと思います。残念ながらご来場いただけなかった方々より寄せられた心のこもったメッセージも紹介され、改めて多くのみなさんとのつながりを実感した時間でした。

美味しく、楽しい時間

和やかな歓談の中、何だか楽しい事件が起こりそう・・・な、なんと、むすびばサンタがやってきました！子どもたちに嬉しいプレゼント！その陰で効果的な音響を担ってくれているのは、避難者のYくん。子どもたちは大喜び、会場内も和気あいあいです。

みなさんが美味しくいただいている芋煮汁は、福島出身の宍戸隆子さんのお手製。お弁当はワーカーズコレクティブ・花さんが心をこめて作ってくださいました。他にもスタッフや来場者からの差し入れがいっぱい！美味しい、楽しい時間です。



福島の芋煮に会場は大好評！
子どもたちも「お手伝い」？

「いのち・むすびば」 代表からのあいさつ

さて19：30頃、交流会のスペシャルゲスト・小河原律香さんがこの会の

ため、山梨県から到着しました。小河原さんは現在山梨県甲府に在住、支援団体「いのち・むすびば」代表を務めていますが、もともとは2011年5月、福島県須賀川市からお子さんとお

うけいれ隊メンバーあいさつ



NPO 法人みみをすますプロジェクトの挨拶



むすびば商店あいさつ



NPO 法人おーるまいていの挨拶



会場からもさまざまな声が。



サンタの登場に、子供たちは大喜び

たり、札幌に自主避難してきた方です。避難後の小河原さんは、「支援されるばかりではなく、自分も支援をしたい」と積極的にむすびばの運営に関わりました。避難者と支援者の垣根を越え、避難者の活動チームである「くらし隊」の誕生に大きく貢献したのも小河原さんです。札幌に避難してきたときのこと、むすびばに関わったときのこと、そして現在の甲府での活動などをかみしめるように語り、最後にはいのち・むすびばのテーマソングである「ともだちになるために」をみなさんと一緒に唄いました。

感謝の言葉に感謝

交流会は終盤に向かいます。それまで司会をしていた東田事務局長からみかみ共同代表にマイクが渡り、会場内の避難移住されたむすびばの仲間たち

へ次々とマイクが廻ります。ここは本当に仕込みなし、いきなりの本番です。みなさまからお礼と労い、感謝の言葉をいただけて、本当に嬉しかったです。

静かな会場に、キルト「あすへのてがみ」スライドショーが始まりました。2012年2月11日に福島市で開催された「いのち全国サミット」の会場で、このキルトは大きな虹をかけました。今はそれぞれのキルトが役目を終え、

デザインをしてくれた子どもたちの手に帰っています。

そして本当に最後、みかみ共同代表が壇上に上がり、閉会の挨拶です。真面目にやると泣きそうなので、と中手聖一さん、小河原さんが呼ばれました。中手さんから全国の避難者団体を結成する決意が語られ、避難者さんの変化の兆しを感じました。みかみ共同代表から札幌むすびばに関わるすべてのみ



「いのち・むすびば」代表の小河原さんがあいさつと唄

むすびば事務局・受付チーム・情報出版チーム あいさつ



むすびば共同代表・みかみと中手さん、小川原さんと、振り返りと決意のトーク

なさんにこれまでのお礼と感謝が述べられ、「みなさんありがとう」交流会は閉会しました。

参加されたみなさま、メッセージを

くださったみなさま、交流会にと支援金をくださったみなさま、当日のボランティアスタッフのみなさん、札幌むすびばを応援してくださった多くのみ

なさま、本当に、ありがとうございました。

メッセージ

福島県郡山市 「イノカフェ」の横田麻美さん

12月7日の企画を知った時、出来れば私も札幌へ行き、皆さんに感謝の言葉を伝えたいと思っておりましたが、翌8日は実母の三回忌法要のため断念いたしました。

伺えずすみません。

みかみサン・小野先生・東田さん・太田さん・富塚さん・リカちゃん・隆ちゃん、そして「むすびば」スタッフの皆さま。

それから…今はメンバーから外れたようですが永田さん。

「むすびば」の沢山の方々には大変

お世話になりました。そして今もお世話になっております。

エルプラザに構える「むすびば」の窓口を初めて訪ねたのは忘れもしません。

2011年夏。

当時中学2年の息子を長期夏休み保養で北海道に送り出し後を追って自分自身も保養とお礼を兼ね札幌を訪れた時です。

福島原発事故後、初めての夏休み。保養受け入れで毎日忙しくしている三上サンとお会いしました。

「よく来ましたね」と言って大きな体の私をハグしてくれました。

その時…急に。

自分の中で構えていた何かが「ホロホロ・はらはら」と崩れる感じで気が付けば涙が溢れていました。

上手く表現出来ませんが「感謝」の「ありがとう」という思いと「頑張ってきた」「闘ってきた」自分への思いがごちゃまぜになって、涙になってし

まったのだと思います。

あの時のこと思い出すと今も涙が出てきてしまいます。

あれから。

「むすびば」の様々な手助けで息子は今…札幌に避難移住出来ています

あの夏に「むすびば」に出会わなければ息子を独りで避難させるなんて考えもしなかったと思うし、その時々にかかる地元での問題なども相談しクリア出来なかった様に思います。

いつもソバにあった「むすびば」だったな…と感謝しています。

ありがとうございました。

「むすびば」が組織解散するのは残念ですが「むすびば」を通じて知り合えた全国の人達との繋がったご縁を大切にしていきたいと思っています。

見ず知らずの私達親子をフォローしてくださり、本当にありがとうございました。

会場へは伺えませんが、「むすびば」の皆さんに「ありがとう」とお伝えください。

郡山市 イノカフェ 横田



あぶくま便り 17

福島より

震災のときには札幌に住んでいたのに、報道関係のツレアイの転勤に伴い福島市に引越し、この9月からはさらに原発に近い原町(南相馬市)の住人になっています。

引越したばかりの頃は、慣れ親しんだ家具を家の中に並べてみても、すぐには「我が家」という感覚にはならないもの。まだそんなヨソ行き気分の9月の初旬に震度4の余震が夜中にあり、飛び起きました。真っ先に頭を過ぎったのは、もちろん原発のこと。その日に限って、夫はいわきに仕事に行って戻っていません。本来、いわきは原町からは日帰りコースなのですが、国道6号線は自由に通れなくなっています。私も夫も住民として特別通行許可書を3ヶ月ごとに申請して持っているのですが、夜7時を過ぎると、朝6時まで完全通行止めです。

防災無線が戸外で鳴り響く中、ラジオを点け、着替えて「現金はいくらあったかしら」などと考えていました。

原町では、概して空気中の放射線量は福島市より低いのですが、震災当時、南相馬市長の判断で住民の避難を促したこともあり、福島市とは住民の危機意識が違います。当時は情報の混乱などもあり、結果的に飯館村などのような線量が高くて高い地域に避難してしまった人も多く、「国の指示に従って屋内退避するべきだった」と市政を非難する人もいます。



南相馬市内では、幼稚園は開園しているが、保育園は閉鎖されたまま。子育て支援センターが親子の憩いの場になっている。

ある小学生の母親は、ボランティアとして地域を支えているが、市外へ移住することも考えているという。



「大人しい」福島県人も心の中には不満と不安が溜まっていて、首長選挙で次々現職が落選しているのは報道されている通りです。

浜通りでは、そこかしこで自宅に住めなくなった人、仕事を失った人に出会います。

初めて行った美容院で、シャンプーをしてくれたお兄さんからは実家の農家が作物を作らなくなった話を聞き、髪を切ってくれたお姉さんから年若いたばあちゃんが仮設住宅に入っている話を聞くのです。

「戦争をくぐり抜けて生きて、晩年に家を追い出されて、すごい人生だなんて思うんです」と涙ぐまれると鎮くしかありません。

◆

そんな仮設住宅にときどき邪魔していますが、顔なじみになった方々が待っていて下さるのは嬉しいものです。私が京都出身だとして存じの方からは、保津川が洪水になったときには「ご実家は大丈夫でしたか」と真っ先に尋ねられました。山越えて原町まで帰る私に何度も「気をつけてな」と言って、窓から手を振ってくれます。

そもそも「応急仮設住宅」の「応急」とは「その場しのぎ」という意味で、体育館などの避難所から移り住んだときには、こんなに長期間住むことになるとは誰も思ってもみなかったことでしょう。毎月伺っている二本松の仮設

仮設住宅の茶話会で、被災者としての思いを言葉に書いてみる。

伊達市内の仮設住宅の集会室で。

住宅は阪神大震災のときの中古で、今ではカビや床の傷みなどが出てきています。

仮設の中で友人も出来、「ちょんらんねえ」(じっとしてられない)と言って趣味の会に入ってニコニコしている社交的なばあちゃんでも、避難してからぐっすり寝られたことは一度もないと言います。まして、表情を失ったような方も少なくありません。

◆

さて、ここに越してきて3ヶ月が過ぎ、ふと気づいたことがあります。近くに高校があることもあり、自転車や徒歩で通学する中高生は見かけののですが、幼児はおろか、小学生の通学する様子を見ていないのです。最近になって知ったのですが、学校の近くに住んでいる子も、不要の被曝を避けるために、親が車で送り迎えをしているのです。登校時には小学校の回りは通学渋滞を起こしています。ここより線量の高い福島市でも見たことない光景です。共稼ぎの親も多いので、放課後も校内の児童館で過ごす子どもが多いのですが、送迎の難しい家庭をサポートするボランティアもあるようです。

一方、仮設の校舎で学ぶ子どもたちはバラバラの地域から通っているので、市が送迎バスを運行しています。南相馬市では、原発避難の小高区の学校や津波被害に遭った学校は、別の学校の校庭に仮設の校舎が建てられ、そこで学んでいます。

子どもの本に係る仕事やボランティア



津波の被害に遭った請戸小学校の窓からは、ガレキの山の向こうに東京電力福島原発が見える。

と数えられるほどの本が並んでいるだけなのです。中学校では目ぼしい施設といえば「相談室」という部屋があるくらいで、体育館はおろか、教室以外の特別室は何ひとつなく、理科の実験にはその都度、実験道具を先生が運んできてなんとか教室でこ

アに長年携わってきた私は、学校の読書環境が気になっており、鹿島区の仮設の小学校と中学校を見に行きました。

まず、小学校の方は仮設の校舎の中に狭いながらも図書室が確保されており、本だけでなく、ぬいぐるみや恐竜の模型など、温かい雰囲気があり、何より素晴らしいのは市立図書館から毎日司書さんが派遣されていて、子どもたちに目をかけているということでした。仮設の校舎に通う子は、自宅も仮設という子が少なくなく、親も子どもストレスを抱えています。家も狭いのに、学校でも十分な体育館もなく、心も体も十分に発散できません。そんな状態の子どもたちには、図書室の果たす役割は通常よりはるかに大きいようです。休み時間に大勢の子どもたちが本を借りにきていました。狭い自宅では買ってもらえないということで、マンガの貸出もしています。

ところが中学校は、廊下にパラパラ

なしているということでした。理科室や美術室などは水道設備も必要ですが、図書室なら本箱を置いて本を並べさえすれば、一応の格好はつづくのに…。

震災のあった年に入学した中学生も、来春には卒業です。私はアフリカの小国ルワンダの教育支援をするNPOに属しているのですが、その民間団体が日本からの支援で創立した学校にだって、図書室はあるのです。ちょうど東京では7年後のオリンピック開催が決まり、大騒ぎしていましたが、こんな状態で日本は先進国といえるのでしょうか。

◆
原町の自宅から車で30分足らずの請戸小学校は津波で荒れ果てていますが、体育館には今も、「祝卒業式」という横断幕が掲げられたまま。あの日から時間が止まったかのようです。

「震災を経験していない」私が南相馬に住んで、ささやかでも出来ること

は何か…。少しでも現状を外に発信していくことしかないと考えています。

昨年6月にむすびばに協力してもらってエルプラザで開催した「飯館村の暮らし」の写真展は、その後も鎌倉や神戸などあちこちで続けています。

観覧した方々からは「この写真に写っている人たちは今どうしていますか」と訊かれることが少なくありません。福島の声が十分に届いていないように感じ、先日の仮設住宅の茶話会で小さな紙を配って、いま感じていることをひと言ずつ書いてもらいました。「かいたい(帰りたい)とか「帰りたいけど帰れない」と書いている人が圧倒的で、直筆の走り書きを、次の展覧会では写真と共に掲示しようと思っています。

◆
浪江からの避難者の茶話会では、私が習ったばかりの相馬の民謡を1番だけ唄ったところ、お年寄りが、私の知らない歌詞を唄ってくれました。

請戸 よいとこ 一度はおいで
魚抱いた 夢を見る 夢を見る

本田 敬子
2012年4月、新聞記者の夫と共に札幌市から福島市に転居。
2013年9月、福島市から南相馬市に転居。元・札幌むすびば受付チームメンバー。

むすびばの 発展的解消 に伴う 事務的な お知らせ

札幌むすびばは12月末をもって活動休止、その後事務整理を行ない、3月末をもって発展的解消をいたします。

以下、事務的なお知らせをいたします。

●札幌むすびば窓口は12月26日で完全に終了し、3月末まで事務所の整理整頓をいたします。

●札幌むすびば公式ホームページとフェイスブックは3月末をもって閉鎖いたします。現在HPなどにある様々な活動報告は適宜整理の上、札幌むすびばの活動アーカイブとして

NPO法人「みみをすますプロジェクト」の公式HPに掲載します。

●札幌むすびば全体メーリングリストは、

3月末をもって閉鎖いたします。ご了承ください。

●むすびば代表電話番号は、3月末以降はNPO法人「みみをすますプロジェクト」の代表電話番号として移行します。今後も継続的に避難希望者さんなどへの対応をいたしますので、ご迷惑をおかけすることはありません。

札幌むすびば事務局へのご連絡は、代表アドレスへのメール：

info@shien-do.com

もしくはむすびば代表電話：

080-4049-4622

へお願いいたします。